

◆命の合体

中川根第一小4年 中村大成



ぼくは、ときどきタイムに野鳥のことを調べている。ハクセキレイやカワセミなどの鳥を見つけることができてうれしかった。この本を見た時にも、鳥の絵が気になって読んでみたくなった。

れいちゃんが大事にかついていたインコのピピッチが、学校から帰ると死んでいた。エサをやったり、いっしょに遊んだりしてたのに、今はピピッチの体はかたくてつめたく、はねもぬれたようになってしまった。れいちゃんも、元気がなくなった。体の温かさや光ってきれいだったのはねのことなどを思い出したら、かなしくなってきた。出てきたと思う。

近くの川岸にスイートピーの花をかざり、小石をならべてピピッチのおはかを作った。死んだ命は、ほしい物をがまんしたり、いやなことをがまんしても生きかえることはできない、命はほかのどんな物ともかえることはできないということも分かった。こんな思いをしている時、カラスが

女の子が、川にやってきたカラスに石を投げると、草むらに落ちてしまった。女の子は「やつつけたよ。」とぼんざいたかったはずなのに、むねが苦しくていきがでえず、しゃがみこんでしまった。私は、女の子はカラスといっしょに、ピピッチまでやつつけてしまった気がしたのだと思う。だから、むねが苦しくなったのだ。この時、やつとようすけ君が言いたかったことに気がついたと思う。

じつと動かないカラスのつばさをなでながら、生きていたころのピピッチのことを話しかけている女の子は、本当にピピッチのことが大好きだったんだなと思った。そして、ようすけ君がくれたりんごを、自分の分と自分の中にあるピピッチの分をかむと、元気になったカラスにあげた。きっとカラスの中に生きていたピピッチに、「元気でいてほしい。」という気持ちであげたのだと思う。そして、ピピッチは、カラスの体を借りて、今も大空を元気でとびまわっていると思う。

おはかをあらしてピピッチを食べた。ぼくは、なんてひどいことをするんだとむかむかしてきた。れいちゃんは友だちのはなちゃんに話して、いっしょにかなしんでもらった。ようすけ君も同じようにかなしんでもらえると思っただけだった。ようすけ君は、「カラスはピピッチを食べると悪いことをしたけど、カラスとピピッチは合体して生きていくんだ。」と言っている。

ぼくは今まで合体と言うと、おもちゃとかの組み立ての合体しか知らなくてお母さんに言ってみた。「お母さん、ようすけ君が言ったカラスとインコが合体して生きるのっておかしいよね。」

「でも、そういう考えもあるんじゃない。」
「なんでえー。」
と、ぼくが聞き返すと、
「人間も病気で悪いところがあれば、ほかの人からもらって手じゅつして元気に生きている人もいるんだよ。そのことを、いしょくって言うんだけど……。」

ぼくは、お母さんの言っていることが少し分かった。だからようすけ君が、カラスに元気でいてほしいって言ったのかな。でも、れいちゃんにはその意味が分からない。近くに飛んできたカラスに、にくらしい気持ちで石を投げた。当たった。うれしいはずなのに……。弱っているカラスをなでながら、ピピッチの思い出をいっぱい話しかけ

た。ようすけ君の言った意味が分かったみたいで、カラスにやさしくなれたんだ。ピピッチの好きだったりんごをカラスにやった。カラスが食べてることは、ピピッチも食べているって思った。

◆りんごあげるね

中央小4年 澤口初音



私は、最初この本を手にしてうら表紙を見た時、おはかの絵がかいてあったので悲しいお話なのかな、でも「りんごあげるね」ってだれにあげるのかな、このおはかにおそなえるのかなと思っ、この本を読んで見ようと思っ

た。この本は、女の子が大好きだった空になっていく毎日は、こわかっただろう。不安でさみしかったら、もし私が、おじいちゃんのように戦争の時代に生きていたら、いつ死んでしまうかも分からないという不安な気持ちにおびえて、こわくてこわくてたえきれなかったと思う。家族や友だちもいなくなってしまうかもしれないなんて考えられない。

エミナたちは、戦争というつらい体験を通して多くの大切なものを失ったが、悲しみをこらえコミュニケーション・ガーデンで必死に働くことで何とか乗り越えようとしている。食べていくのがせいっぱいの毎日でも、みんなが仲良く助け合い、うれしさを分かち合うことが、どんなにはげみになり生きる希望となることか。

家にかけてあるカレンダーの「荒了寛」という人の言葉に、「人間は一人では幸せになれない。幸せは人と人との間から生まれてくるものです。」というのがある。私は今までそれをなにげなく見ていただけで、深く考えたこともなかったが、この本を読んでからとても気になるようになった。まさにエミナたちのしていることにつながるのではないかと……。

今の時代は昔とちがいが、人とかかわらなくても生きていける機械化された社会になりつつあると母は言う。パソコンやインターネットで会話もできるし、お買い物もできる。それはそれでとても便利なことだ。でも、もし今、

色のセキセイインコのピピッチが死んでしまい、女の子が悲しい思いをするお話だった。女の子は、「ピピッチが生き返るんだしたら、今一番ほしい自転車も色えん筆もいらぬ。きれいな牛乳も飲むし、お母さんがるすでもがまんする。」と、お願いした。もし、私も大切な家族が死んでしまったら、同じようなことを考えたと思う。大切な人がもどってきてもくれるならお手伝いもするし、言うことも聞く、弟にもやさしくする。大切な人のためなら、何でもできると思った。

女の子は、ピピッチを川岸にうめて、スイートピーの花でかざってあげた。このおはかが、うら表紙にかかれていた絵だったのかな。でも、このおはかがほり返され、ピピッチの体がなくなってしまう。カラスが食べてしまったのだ。そのことをとりの席のようすけ君に話すと、ピピッチの大好きだったりんごをおはかの上においてくれた。そして、

「そのカラス元気でいてほしいよね。ピピッチの体はカラスと合体したんだ。だからカラスといっしょさ、ずつと空を。」
と言うと、女の子は、「やめてよ。」とさげんだ。私は、この時、ようすけ君の言いたいことがとてもよくわかった。ピピッチは、カラスの体の中で生きている。そして思いっきり空をとぶことができる。だからカラスに元気でいてほしいと言ったのだと思う。

戦争とは言わず地震や災害で自分が本当に困ってしまったら、何をたよるのか、何に助けられるのか。やっぱり機械ではなく人だと思ふ。家族だと思ふ。だから、私はこれから家族や友だちやみんなとすこすここのでできる毎日をもっともっと大切に、将来は人とかかわる、ふれ合うことのできる人の役に立てるような仕事をしたと思う。平和な時代が、ずっと続きますように。

◆いのちの作文

本川根小6年 坂本玲奈



この本は、小学6年生の猿渡瞳さんが、骨肉腫という骨のガンと約1年半におよぶ闘病生活を描いた本です。

瞳さんは、医者から病気に負けなければ命がない。右足を切断しなければならぬと聞き、とてもショックを受けました。でも、すぐに前向きに必ず病気に勝つと決意し、結果は右足の手術はしましたが、右足を残すことはできま

キリトリせん

引換券

有効期限内に700円以上お買い上げのとき、500ポイント以上キャッシュバックされたレシートをお持ちで、本引換券をレジ係員に渡すと200円商品券と引換できます。有効期間：平成19年12月1日～20日

キリトリせん

より良い品を より安く
オザワマート

営業時間・午前9時～午後7時（日曜日・午前9時～午後6時）
川根本町上長尾 TEL 56-1108 FAX 56-1109



45周年の感謝をこめて
寸又峡温泉 温泉感謝祭

12月6日（木）～12月7日（金）
時間：両日とも19時～ 入場料：500円
12月6～7日の感謝祭期間中は、町営露天風呂を含む寸又峡温泉の入浴施設が無料でご利用いただけます。（ご利用できる時間は左記までお問い合わせください）
会場で酒類をお飲みになる方は公共交通機関をご利用ください。

寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合
TEL 0547 (59) 1011